

ロマンチック保存装置 #13



WILL

皆さんとの距離に危機感を抱き、当館を立ち上げたのが、ちょうど3年前。

メーカーとしての原点に立ち返り、自らが造る紙に真正面から向き合い、

“紙ハ好きデスカ?”の問いかけから手探りで活動を始めました。

やがてそれは“紙ガ好きデス!”という小さな確信になり、

全ての紙の魅力を平等に見つめ直す“風色光人”へと、つながりました。

この積み重ねの中で、私たちメーカーが固定概念に縛られ、

そこから派生した窮屈な尺度が、紙の魅力さえも奪いがちな現実を目の当たりしてきたのです。

そして、4年目の今。

固定概念の手強さを認識した上で、

それでも誰よりも紙に近く、紙への揺るぎない想いを抱く立場を自覚しながら、

現場に赴き、対峙し、話し合う。

1枚の紙を通じて、人間の風合いを感じるまでに交流する。

効率化が叫ばれる時代に、一見マッチしないアプローチかもしれませんが、

紙の確かな手触りは、出逢いの手触りに似て、触れ合った分だけ深く届きます。

そこにこそ、閉塞感をも突破できる力が宿ると信じているのです。

いつの時代も、気の遠くなるような手間の先でしか活路は見い出せないから、

焦らず、緩まず、決してブレず。

風は待たず、自ら波風を立てながら、船を沖へと進めます。

①



① → エコラシャ

厚物が増え、一気に本命へと躍り出る。

あの“エコラシャ”が一気に分厚くなりました。四六判横目で待望の180kg（15色）が参戦。ターゲットをずばり並製の表紙にロックオンして、一気に勝負に出ます。同時に130kg（5色）が加わり、また100kgの方でも全38色が揃いました。ブレンながら存在感ある風合いを持つ使いやすい紙なので、書籍の表紙や見返しだけでなく、パッケージ、商品タグなど、用途も一気に分厚くなりました。豊かなクッション性がありながらも、刷ればしっかりと色がのり、ベタで刷っても充分に行ける。つまり、無限の色彩を愉しめるキャンパスとなるのです。

色展開の中で淡い色が充実してるのも、印刷を考えてのこと。また濃色では、くすみのない冴え渡った色味にこだわっています。価格設定は低く抑えながら、品質は非常に高い。はっきり言って、ここまでお得な紙を私は知りません。ぜひ一度、手に取ってください。この名前、覚えて帰ってください。頼りになると、確信しています。

諏訪尊紀（すわ・たかのり）
王子特殊紙株式会社 FP事業本部 技師



②



A	B	C	D	E	F
●	●	●	●	●	●
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○

② → OKアドニスラフ Pink OKアドニスラフ Blue 色味はより大胆に、在庫はより細心に。

皆さんからご意見を伺ってきた“OPL No.1”、“OPL No.2”が、ついに“OKアドニスラフ Pink”、“OKアドニスラフ Blue”として製品化されました。このかつてない思い切った色味へと踏み込んだ2紙が、お馴染みの“OKアドニスラフ 80・75・70”と、すっきりと冴えた白さの“W (White)”のラインナップに加わって、一段と華やかな全6色に。またこれを機に、シリーズ全ての平判在庫を見直し、書籍にも対応できるように四六判横目を、そしてA4サイズの雑誌やパンフレットにも対応できるようにA判横目も追加し、さらに使いやすくなりました。すでに多彩な色味を多彩な判形でご採用いただいています。独特の素材感豊かな風合いを持ちながら、意外なほど印刷再現性にも優れた本シリーズは、中質紙。褪色の問題さえご理解いただければ、遊び心を存分に発揮できる貴重な戦力となることでしょう。本展示の写真のように4色印刷もしっかりと載るし、ベースとなる紙の色の違いで、同じ写真の印象もかなり変わります。また新しく造った見本帳を手にとっていただければ、嵩高紙ならではの軽さに驚かれることでしょう。見本帳の小口をご覧ください。6色の差も、さらにくっきり。この“OKアドニスラフ・シリーズ”は、2010年に100周年を迎える苫小牧工場（北海道）にて生産されています。伝統が息づく現場の熱い声を、見本帳の巻末に綴じ込みました。そちらの方もぜひ、ご一読いただければと思います。



③



← ③'

A	B	C	D	E	F
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●

③ → UFコート

江戸っ子の心意気。

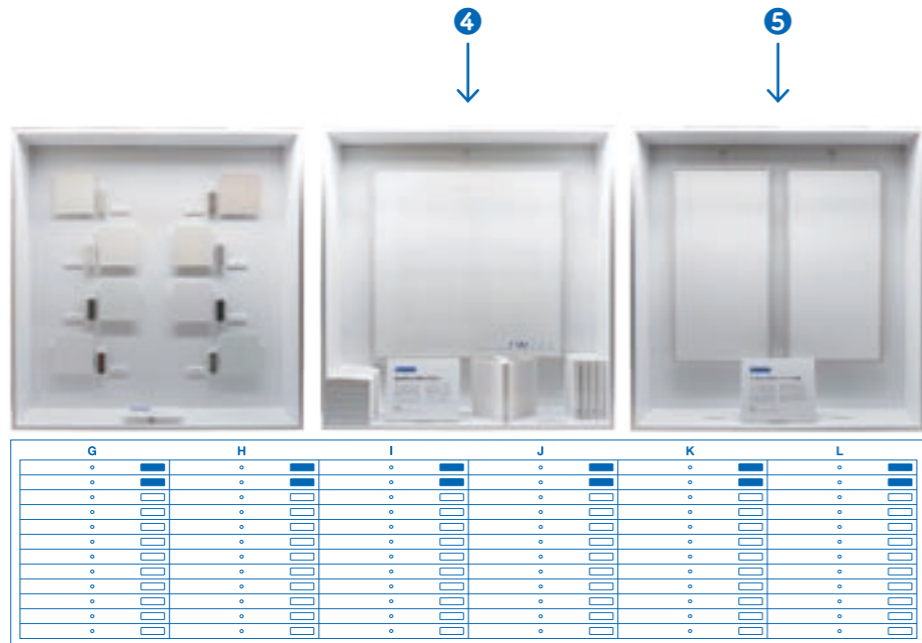
“UFコート”を造っているのは、都内唯一の製紙工場である我が江戸川工場。この工場、ちょっと破天荒です。とにかく造ってる紙が、UFコートだけ。これは他ではあり得ないことで、この一紙に全エネルギーを注いでます。例えばその寸法の幅広さと言ったら、倉庫を覗けば、規格判だけでもズラリ110種類。特注品では5mm刻みで1,000種類以上の対応が可能です。展示中のネビアの多彩な箱のニーズに対しても、まちごころば町工場のような人情を大切にしながら細やかに速やかに応えてます。本紙の誕生時からのマシンである「ウルトラフォーマー（Ultra Former）」を駆使し、工夫を重ねて追求した面の良さと抜群の印刷適性も、UFコートならではの。ここに至るまでには、マシンを次々に止めて工場の危機を迎えた時期もあり、そこから盛り返してこれたからこそ、この一本勝負に確信があるのです。当工場独自となる機密古紙の受け入れも、都心でやっていく自覚によるもの。東京の古紙を使い、東京の工場でつくられ、東京から迅速に届けられて、それらがまた古紙として戻ってくる、ちゃきちゃきの江戸っ子コート白ボール。今後自分たちのやるべきことをしっかりと見据えたUFコート一本勝負で、きめ細かく対応しながら、でっかく、でっかく育てていきたいと思っています。

王子板紙株式会社 江戸川工場 一同



③' → UFコートが支えてきた、ネビアの箱のダイエット。

ネビアのティッシュが誕生した1972年以来、'96年、'00年、そして'09年の“ちよびエコ”と、中味の枚数は変えずに、箱だけダイエットに成功しています。この箱に使われ続け、サイズ変更を柔軟に支えてきたのが“UFコート”。特注なら5mm刻みで1,000種類以上のサイズを持ち、どんな大きさや形状の箱にも対応できる万能選手として、広く活躍しています。



4 → ハーフエア

紙の使命は、印刷だけではない。

この“ハーフエア”は“エコラジャ”と違い、一目見れば印刷で苦戦するのが想像できます。ただ実際に刷ると、確かに印刷再現性や紙粉などの課題はありますが、この紙の狙いは知っていたので、見本帳の印刷時もそこは問題ではありませんでした。もちろん「キレイな紙にキレイに印刷する」ことだけを求めれば、決してお薦めしないし、むしろ対極の紙です。でも紙は印刷するだけの道具ではありません。本紙は、紙自身の風合いや手触りを含め、形になり手にとって初めて活き

る紙。活かすべきは活かし、諦めるべきは諦めるという潔さと戦略を持ちながら、使う紙でしょう。この紙に魅力を感じた方もし、パッと見のキレイさにこだわるクライアントや、自分の作品を忠実に再現したい写真家やイラストレーターと組む場合は、話し合っておくことをお薦めします。その面倒をコツコツやれるタフな方には、この紙は必ず応えてくれるはずですよ。

佐藤 雅洋 (さとう・まさひろ)
文楽堂印刷株式会社 営業本部 第3チームリーダー 課長



5 → フリッター

エコラジャが布なら、フリッターは壁。

“エコラジャ”の感触が柔らかい布だとするならば、この“フリッター”はポコポコ感のあるナチュラルな壁。まるで手づくりのような温かみがある、極上の風合いなんですよ。エンボスによる硬い印象の凹凸を持つ紙ならよく見かけられますが、この絶妙の柔らかい凹凸を狙って出している紙は、ちょっと他紙では思い浮かびません。またもう1つの特長として、これでもか、と言うくらいホワイトで厚み(斤量)が揃っているんです。通常は1銘柄で厚さの種類は2~5種類ほどですが、この

フリッターの場合は何と10種類。中でも、特に厚いものと貼合なしでパッケージに使えるので、例えば同じ案件で厚いものはパッケージに使い、薄いものは印刷物に使うなどして揃えれば、統一感ある豊かな風合いの世界を構築することができます。ちなみに、当館の立ち上げ以来、紙サンプルを入れてお持ち帰りいただくためのケースとしても活躍中です。

後藤 真 (ごとう・まこと)
王子特殊紙株式会社 FP事業本部 富士製造所 製造課 副長



6



6 —→ OKカサブランカXX

シロクくん meets キクちゃん vol.4

「嵩高紙って、何者？」

キクちゃん は〜い、お陰様で「王子ペーパーライブラリー」は4年目に突入。私たちが初心を忘れず、紙の奥深さと楽しさを、わかりやすくお伝えしていきます。

シロクくん 今回のテーマ、「嵩高」って字も読めない。何者？

キクちゃん “かさだか”って読むのだ。嵩^{かさ}って聞き慣れないけど嵩張^{かさば}るとか言うよね。嵩高紙は、ふんわり作っているの中で中はスカスカ。普通の紙と同じ厚さでも軽くなるんだよ。1枚ではわかりづらくても、本にした時、ページ数のわりに分厚くなるよ。展示中の「OKアドニスラフ・シリーズ見本帳」を持ってみて。見た目より、驚くほど軽いでしょ？

シロクくん ホントだ！“かさだか”って何だか最近よく耳にするけど、本や雑誌が軽くなってきたのは、このせいかな。これだけ軽いと本が身近に感じるね。重いと荷物になるから、持ち運びも考えちゃうよ。でも、この嵩高紙って、普通の紙とどう違うの？作り方が違うの？

キクちゃん 例えば、この「OKアドニスラフ」の場合ならば、

紙の原料になるパルプに、主に新聞などで使っている嵩^{かさ}が出やすいものをふんだんに使用し、ふんわり仕上げているの。この他にも、嵩高剤^{かさかじょう}っていう膨らし粉^{ふくらみこな}のような薬品を使い、パルプの繊維と繊維の間に隙間^{ひま}を造って仕上げる方法もあるよ。

シロクくん 膨らし粉なんてケーキみたいだね。でも確か、印刷のノリを良くしたり、光沢^{くわさつ}（グロス）を出すために、表面を潰したり、磨いたりして造る紙もあるんだよ。せっかくだらないうちでも潰れたりしないの？

キクちゃん よくぞ、聞いてくれました！全部が潰れないように、微妙な力加減^{りきげん}で少しか潰してあげて、表面を滑らかにしたり、光沢を出したりしているのよね。中でも、光沢を出すのが一番難しい。例えばこの展示してる「OKカサブランカXX」は、強光沢がウリなだけに、実は一番難しい嵩高紙なの。

シロクくん どうしてそこまでして、軽くしようと思ったのかな？

キクちゃん それは圧倒的なニーズによるものね。こういうことを言うと、難しい嵩高紙を苦勞して造ってる製造現場から怒られるけど、本にした時の軽さへのニーズだけじゃなく、実はコストが抑えられる点も大きい。紙の価格＝単価×連量^{つらりりょう}（重さ）だから、紙が軽くなると、その分コストは抑えられる。詳しくはRoman Check保存装置 #8「ヒミツ」を要チェックよ！

シロクくん だったら、全て嵩高にすればお得なのでは？

キクちゃん ん〜、そうでもないのよ。本や雑誌の種類によっても、重さや、しっかりした紙腰^{かこ}で高級感を出したい場合もあるしね。アート紙のように究極^{きゅうごく}の印刷再現性^{さへんせい}を求めるなら、紙を締め^{しめて}の方が良いのは間違いないけど、そこはぜひ使い分けて欲しいところなの。

シロクくん ページ数が少ない時には厚みが出て、しかも軽くなるのは良かったけれど、逆にページ数が多い時にはどうするの？ すごく厚い本になっちゃうよ。

キクちゃん そういう時には、この隣で紹介してる「OKライトクリーム」がオススメ。嵩高に加え、裏抜けしにくい技術^{ぎじゆつ}をつぎ込んだ紙だから、薄くても裏抜けしないの。これならば、ページ数が多くてもコンパクトにまとまる。しかも嵩高だから当然、軽いつけわけ。

シロクくん なるほど！本のほとんどの割合を占めるのが本文用紙だから、キチンと選ばないとね。

キクちゃん 紙はコストだけでは、決められないの。どんな風に仕上げたいかで、紙を選んでいかないとね。いろいろあって迷っちゃうけど、ちゃんと選ぶと楽しいね。

シロクくん 嵩高を理解するだけで、選ぶ楽しさを知った気がする。皆さん、選び抜いて、いいもの造ってください。

7



G	H	I	J	K	L
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

⑦ → RC未晒クラフト

簡素な中にも、力強さと温かみがある。

古紙で厚みを出す“UFコート”と違い、古紙が入りながらも薄くて強度のある“RC未晒クラフト”。この強度は、無印良品の手さげ袋としても活かされています。お客様が手さげ袋に求めているのは、底が抜けず、紐が取れないということ。この袋を、シワになるまでご使用いただく姿をよく見かけることから、この紙が弊社の追求する“適材適品”であることがわかります。もちろん強さ以外にも、ロゴが映える赤味がかった色と風合いに温かみがあって、これは日本人の好みに合うものです。店頭に出た商品は誰かに愛されるわけですから、その想いに応えていくためにも安易な生産の中止は許されず、必然的に、繰り返し愛用されるような製品の開発が求められ

ます。無印良品が変わらぬテイストで30周年を迎えることができるのも、こんな葛藤の積み重ねによるもの。お客様は、非常に細かいところまでチェックされています。目先の事情で踊らず、じっくりと地に足をつけて、良いものをお届けしていくことがモノづくりの原点。日本中が欧米型の効率化をマネし過ぎて、失うものも大きかった。簡素な中にも配慮が行き届いた、日本人ならではの繊細な美意識を今後も大切にしていきたいと思っています。このRC未晒クラフトの魅力も、正にそこにあるのではないのでしょうか。

萩原 富三郎 (はぎわら・とみさぶろう)
株式会社良品計画 品揃開発担当課長

無印良品

300種類の中から紙を検索して、無料サンプルをお持ち帰りいただけます。

OJI PAPER LIBRARY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 (王子製紙本社1階) papertec@ojipaper.co.jp

www.ojigroup.net



この用紙は「OKアドニスラフPink A判 Y目 42kg」を使用しています。